

(1)米粉商品開発等支援対策事業（ソフト事業）

【予算額：20億円 交付決定額：20億円】

米粉を原料とする商品開発・製造等に必要な食品製造業者等の取組を支援（1/2補助）

○主な交付決定者【交付決定数：全83事業者】

企業名	事業内容
ケンミン食品(株) (兵庫県)	国内産米粉を主原料とする高品質なラーメン等の開発、販売
(株)ニッポン (東京都)	家庭用等の米粉の新商品の開発、販売
東北日本ハム(株) (山形県)	米粉のホットドック、食パンの開発・販売
(株)BIOSSA<神明子会社> (東京都)	BtoBの取引に向けた米粉パンの開発、販売
みたけ食品工業(株) (埼玉県)	用途に対応したミックス粉等の新商品の開発、販売
熊本製粉(株) (熊本県)	新品質の米粉配合パン用ミックス粉の開発、販売
(株)熊本玄米研究所 <(株)中九州クボタ子会社> (熊本県)	玄米ペーストを使った玄米パンや玄米麺の開発、販売
(株)タカキベーカリー (広島県)	米粉の特徴を生かした米粉を使ったパンの新商品の開発、販売
(株)ひよ子 (福岡県)	米粉を配合したクッキー、サブレー、スポンジケーキ、まんじゅう4製品の菓子の開発、販売
(株)中村屋 (東京都)	皮に米粉を配合した中華まんの開発、販売

(2)米粉製品製造能力強化事業等（ハード事業）

【予算額：114億円 9月22日現在交付決定額：16億円】

製粉業者、食品製造業者による米粉・米粉製品の製造、施設整備及び製造設備の増設等を支援（1/2補助）

○交付決定者：全6事業者

(株)タイナイ（新潟県） 補助額：1,028百万円
 <事業概要> 拡大が見込まれる角食パンの増産及び業務用冷凍パンの新規製造を行うための機械の導入及び建屋の建設

(株)波里（栃木県） 補助額：475百万円
 <事業概要> 米粉製造量増産に対応した米粉処理加工機械の導入及び建屋の建設

日本ハイドロパウテック（株）（新潟県） 補助額：39百万円
 <事業概要> 米粉を活用したアレルギーフリーチョコレート及びパウダーを製造するための機械の導入

中島製粉（株）（福岡県） 補助額：33百万円
 <事業概要> 米粉の需要増に対応するために必要な米粉製粉設備を導入

(株)いつみ家（山梨県） 補助額：141百万円
 <事業概要> 米粉を使用した惣菜の製造・販売を行うために、新規に米粉の製粉工場を新設

(株)ヤマダ（滋賀県） 補助額：96百万円
 <事業概要> 米粉製造量増産に対応した施設及び米粉製造ラインの導入

■ その他審査中（9月22日現在）

(3)米・米粉消費拡大対策事業（ソフト事業）

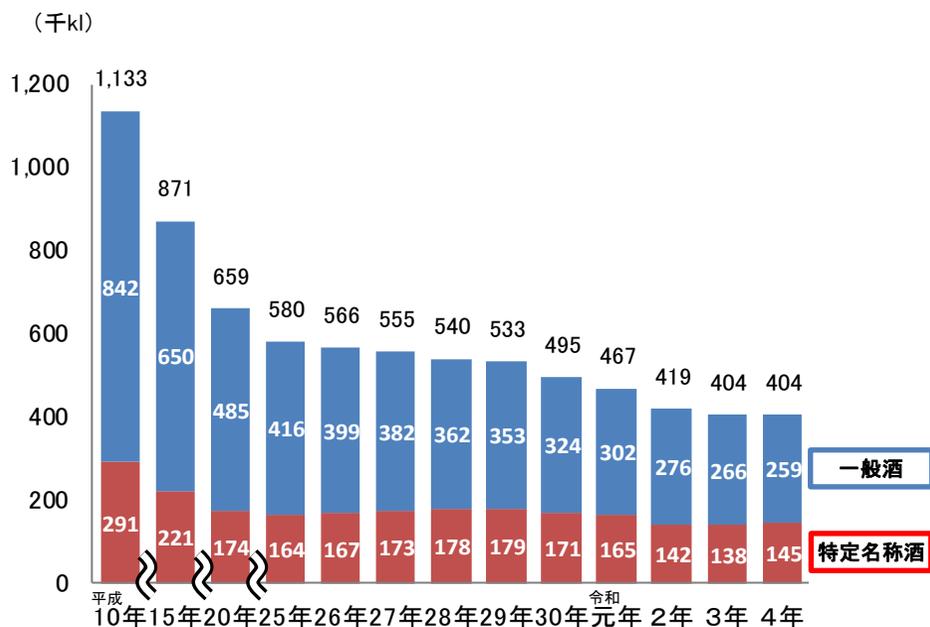
【予算額：6億円 交付決定額：6億円】

事業実施主体：株式会社ぐるなび
 外食事業者と連携したイベント、TVCM等を活用した情報発信等の実施。

日本酒の需要動向と原料米の使用量について

- 日本酒原料米の使用量については、日本酒出荷量の減少に伴い、減少傾向にある。
- 令和3年においては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響等により、酒造好適米を多く使用する特定名称酒を含め、業務用を中心に日本酒の国内出荷量が減少した一方、輸出量については、海外での日本食ブーム等を背景に対前年比+47%と大幅に回復。
- 令和4年においては、国内出荷量については、前年と同水準で推移した一方、輸出量については、アメリカ、中国への輸出が堅調に推移し、対前年比+12%と増加。

○ 日本酒の国内出荷量の推移



資料：日本酒造組合中央会調べ。年は暦年。

注1：国内出荷量は、清酒課税移出数量。

注2：日本酒は、一般酒のほか、原料、製造方法等の違いによって吟醸酒、純米酒、本醸造酒等に分類され、これらを総称して「特定名称酒」という。

注3：ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

○ 日本酒原料米の使用量

(単位：千トン)

	平成10年産	15年産	20年産	25年産	26年産	27年産	28年産	29年産	30年産	令和元年産	2年産	3年産
日本酒原料米	405	315	261	243	248	251	241	240	227	206	180	184
酒造好適米	99	75	77	76	90	99	97	94	88	83	70	67
加工用米	86	89	74	95	105	94	93	88	90	85	63	67
その他	220	151	110	72	53	58	51	58	49	38	47	50

資料：農林水産省による推計値。

○ 日本酒の輸出量の推移

(単位：kl)

	平成10年	15年	20年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年	対前年比
日本酒輸出量	8	8	12	16	16	18	20	23	26	25	22	32	36	112%
アメリカ合衆国	1	2	4	4	4	5	5	6	6	6	5	9	9	103%
中華人民共和国	0	0	0	1	1	2	2	3	4	5	5	7	7	102%
香港	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3	84%
台湾	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	116%
大韓民国	0	0	2	4	3	3	4	5	5	3	2	2	4	168%
その他	2	2	3	4	4	5	5	6	6	6	5	8	10	125%

資料：「貿易統計」(財務省)。年は暦年。

注：ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

酒造好適米の需要に応じた生産について

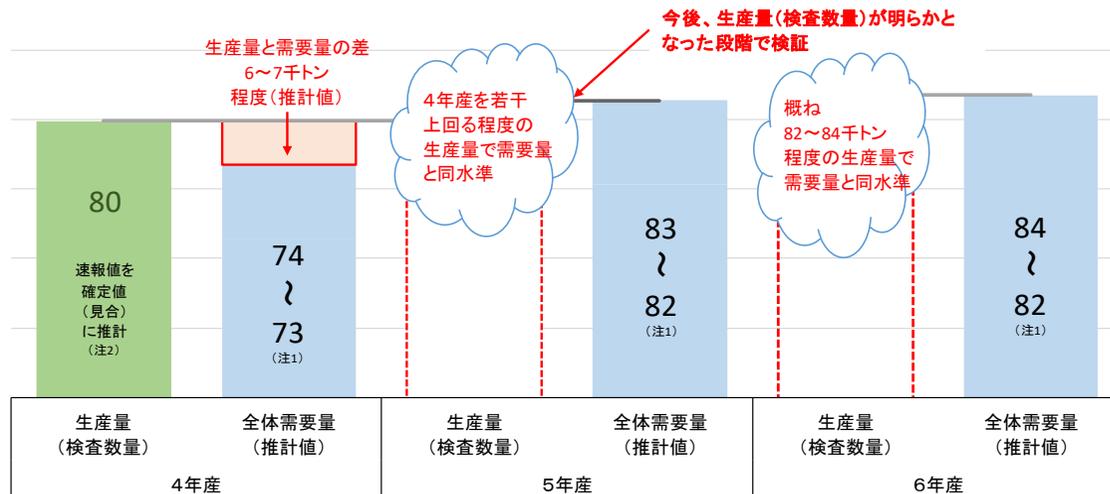
- 酒造好適米の需要に応じた生産に向けて、生産及び実需の関係者による「日本酒原料米の安定取引に向けた情報交換会」を毎年開催するとともに、需要に応じた生産を行うための指標として、平成28年度から全酒造メーカーを対象とした酒造好適米等の需要量調査を実施。
- 令和5年7月に実施した需要量調査によると、
 - ① 令和4年産については、全体需要量(推計値)と生産量を比較すると、生産量が需要量を6～7千トン程度上回っているものと推計され、
 - ② 令和5年産については、全体需要量が令和4年産の生産量の+3千トン程度と増加している。
 - ③ 令和6年産については、全体需要量が82～84千トン程度と見込まれる中、各産地においては、自らの在庫状況、令和5年産の生産及び需要動向等を踏まえ、需要に応じた生産に取り組むことが重要。

調査の実施状況

	令和5年度
調査期間	令和5年7月
調査対象	酒造メーカー 1,248社
回答数	765社
回答率 (数量ベース)	85～86%

酒造好適米の全体需給状況の見通し(推計)

(単位:千トン)



注1: 各年産の全体需要量(推計値)は、令和5年7月に実施した需要量調査の数量ベース回答率が、令和3年産酒造好適米の全体需要量(66～68千トン)と当該調査の令和3年産の需要量(約57千トン)から約85～86%と推計されるため、各年産の調査結果の需要量を当該割合で除することにより算出。

注2: 生産量は、農産物検査数量(醸造用玄米)の値。ただし、令和4年産は、令和5年3月31日現在の速報値を直近3カ年の3月31日現在の農産物検査の進捗率により確定値見合いに推計。

⑤ コメの輸出・輸入
